

<目次>

特集

地域開発(県計画)の指標—城南地区

- 工業開発と農業の近代化と……8
- ♣ 八代港の改修と工業用地造成 ……15
- ♣ 氷川の総合開発計画 ……16
- ♣ 八代平野の農業開発 ……26
- ♣ 伸びゆく城南の果樹農業 ……28
- ♣ 城南林業の焦点 ……31

点

- 1. 緑川総合開発 ……12
- 2. 八代工業用水道事業 ……16

よこがお

- 1. 新しいアイディアで推進(甲佐町) ……12
- 2. 三太郎新国道のこの頃 ……13
- 3. 城南の観光 ……14
- 4. 八代のハウス栽培 ……26
- 5. 共販で「売手市場」へ(鏡町) ……27
- 6. めざましい増殖意欲(津奈木町) ……29
- 7. 協業体制への移行(不知火町) ……30
- 8. 矢部特産品のニューフェイス(矢部町) ……32
- 9. 適地適木の開発も(湯浦町) ……33

■ここに人あり

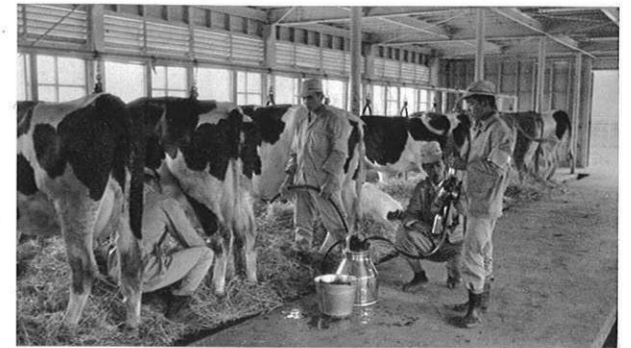
- 新しき農民像 ……25

- ♣ <解説> 512億円の使い道
—新年度予算のあらまし— ……34

随想 原田 久・本田たえ子・福島次郎

- ★グラビアページ★
若者のうたごえ・ひらけゆく城南の顔・新産業風土記
- ★センターカラー(八代港)
表紙の言葉(三角港)

天草観光の玄関口として、いつになく色めきだっているこの頃の三角港。大型の観光フェリーやら観光遊覧船やら、モダンな色どりの船、船が出たり入ったりで、妙によそよそしい光景が印象的である。



上・搾乳の実技指導…すべてが新しい体験だ



上・生徒の食事は当番の調理班が手際よく……



上・クラブ活動では柔道もさかんだ。



上・モダンできれいな宿舎でのたのしいひととき。

近代農業のいない手

〈熊本県経営伝習農場の生徒たち〉

東の空がようやくくしらはじめの五時半、全員一斉に起床。隣のマンモス鶏舎のトリ公たちが騒ぎ出す。中学を卒業して、この四月に入ったばかりの生徒たちにとっては大変な時間でもある。城南町にあるこの伝習農場には今二百名の仲間がいる。規律正しい寮生活を通じて、又師弟共に暮す中から共同生活を学び、実習を通して農業に対する意欲をつくる。ことをモットーとしてこの農場では、学科六百時間、実習千五百時間と、特に実習を中心とした実践教育に力を入れている。実習といえば、普通作、機械利用、そ菜園芸、果樹、畜産等に分かれているが、生徒の殆んどが農家の長男だけに、家族の期待をひとしお双肩に感じ、自家営農種目の時間には思わず力みがちになるのも無理もない。九州でも屈指のこの農場には二五〇頭のほ場と乳牛三〇頭、それに近代農業にはかかせない機械器具が完備しているので農業実習の場としては申し分ない。特に人気の的になっているのがデラックスな宿舎だ。これからの農村生活はまず文化的且つ、ムードが必要であるということをも身をもって痛感するものだ。

ところで、四カ月の基礎訓練が終了、農繁期に入ると、夫々に自分の選んだ専業農家に一名づつ委託実習に出かけることになる。これは一カ月の間その農家の経営実態を、生活を共にしながら学びとろうというものでいわば一寸した武者修業のようなものだ。生徒の中には、卒業後も、問題点があれば、その委託農家に出かけているケースが多いらしくそのつながりは意外と強そうだ。

ともかくも生徒たちの近代農業への夢は大きい。そしてきびしい毎日の実習の中から確実な自信が少しずつ湧いてきそうなこの頃である。